

事業報告

令和6年度 大分県公民館関係職員研修会

日時：令和6年5月28日（火）12：30～15：40
会場：大分県立図書館
参加者：88名

<趣旨>

各市町村の公民館関係職員等が一堂に会し、これから求められる公民館の役割や機能を理解し、公民館職員としての資質の向上及び相互の連携を図ります。

【講義Ⅰ】12：40～14：10

講義：公民館のこれまで、これから

講師：別府大学文学部人間関係学科 教授 長尾 秀吉 氏



別府大学教授の長尾先生の講義を受講しました。

ご自身の地域での体験も踏まえつつ、公民館を拠点とした地域コミュニティの活性化のヒントを数多く示してもらえました。

教育・福祉・医療・まちづくり…等々、これからの地域コミュニティに求められるものは多く、公民館にできることは限られるという現状について、その現状委前向きに捉える視点をたくさんお話し頂きました。

講義：今を生きる私たち

－部落差別、なぜ、ありえないはずのものが、ありつづけるのか？－

講師：大分県人権教育・啓発推進協議会 人権啓発講師 一法師 英昭 氏

「ないものは、なくせない」今ある部落差別を、歴史的に、社会的にかなり深く学ぶことができました。私は差別なんてしない、という落とし穴に陥りがちな私たちに、差別の存在を許さない姿勢を示し、学びによって差別を追い込んでいくことの大切さを語りかけ、多くの受講者がその大切さに気付かされました。

<参加者感想>

- 教育、福祉の垣根を無くしての取り組みはこれから益々大切になることがよく分かりました。まちづくりや子ども食堂など地域の課題とも向き合っ共活動していく方法も模索していきたいと思ひます。ありがとうございました。
- 公民館活動が衰退しつつある中で、福祉の観点で見ると需要が高まっていることを知ることができました。福祉と連携し公民館を活用、活性化できるよう、きっかけを探していきたいと感じました。そして、まずは一住民として地域活動に参加していきたいと思ひます。本日は公民館の存在意義、地域コミュニティの大切さなど、とても貴重なお話が聴けました。ありがとうございました。
- 部落差別については、これまでに受けた研修の中で最も共感できました。
- 講義1について:担当地区で地区内各団体の長に案内して「まちづくり座談会」を開いたばかりだったので、そこで出た様々な意見を長尾先生の話の中で言語化することが出来ました。担当地区は高齢化率が50%を超えており、また人口減少も加速化する中で、福祉との連携また福祉分野との住み分け等は喫緊の課題です。
講義2について:一法師先生の講演の聴講は2度目ですが、本当に毎回、最後までその内容に引き込まれます。わかりやすく言語化されていて、主催者側になる立場の公民館職員として何をするべきか、背中を押していただきました。高校生のコメント(私等に言わないで等)の話は残念でしたし、改めて主催者側の大きな責任を感じました。
- 講義Ⅱを聞いて、昨年公民館で行った人権講演でのやりとりを思い出しました。講師はゲイとしての自分の経験を話して下さった後、何か質問はありますか?と言ひました。受講生の中から「先生が良い人だというのはわかったが、もし自分の家族にゲイだと言われたら偏見の目で見ってしまう」と正直な意見が出ました。それに対して講師は「それでいいんです」と返しました。「私の話を聞いて、私のことを良い人だと思ってくれたらそれでいいんです。いつだって属性ではなく私とあなたの気持ちの問題だから」と。責任を放棄しない決意とはまさにこのことではないかと感じました。